【福島町老人クラブ連合会創立四十周年記念メッセージ】

「感謝と敬意の気持ちを込めて」

福島町議会議長　溝部幸基

「福島町老人クラブ連合会創立四十周年」おめでとうございます。

この間、ご尽力されました皆様に、感謝と敬意の気持ちを込めて心からお祝いを申し上げます。

連合会創立から幾多の変遷を経た四十年後の福島の現状は、隔世の感があります。世紀の大事業「青函トンネル工事」北海道側基地として大きな役割を果たし、今年、ようやく、北海道新幹線の開業を見ることもできました。

ピーク一万三千九百人の人口が、現在は約四千四百人。六五歳以上の高齢者は四三％、千九百人となり、過疎少子高齢化が進行する厳しい状況が続いておりますが、町民みんなで知恵を出し、汗をかき、力を合わせ、前進しなければなりません。

「老後の一日、千金にあたるべし」と言う貝原益軒の教訓があります。老後の一日は、千金に値するよう楽しく有意義に過ごしなさいということだと思います。受身で動き出すのではなく、自分から行動し、挑戦する気持ちを持ちましょうということだと思います。自分にとっての値千金は何かをどうかこの機会に皆さんの胸の内で考えていただければと思います。

何よりも健康が第一です。健康の秘訣は、よく食べ、よく働き、運動をし、よく寝ることと言います。特にしっかりと食べることが大切ですし、明かるく笑顔で仲良く交流することも心身の健康にとって大事なことです。皆さんが老人クラブで引き続き元気に活動されますことを願っております。

結びになりますが、創立に懸けた関係者の志を再確認し、貴重な四十年の歴史をステップに、会の隆盛を計り、福島町のため、豊富な経験と貴重な見識を活かし、意気軒高なご助言をくださいますようお願い申し上げ、ご出席の皆さまのご健勝と連合会の弥栄を心からご祈念申し上げメッセージとさせていただきます。